

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2018.4.25 No. 321 東京・羽村平和委員会発行



4/10 羽村第3中学校にパラシュートの一部が落ちた！ 4/12 訓練再開



4月10日16時50分頃、横田基地で人員降下訓練中、パラシュートの一部が、羽村第3中学校の校庭のテニスコートに落下しました。このことについて、防衛省は米側から情報を得たとして、今回の事故の発生状況を情報提供しています。

「約3,810mの高度を飛行していたC-130から米兵8人が4秒毎に1人ずつ自由降下し、36秒後の約1,676mで開傘したところ、そのうち1名の米兵のメインパラシュートと予備パラシュートの両方が開傘したため、当該米兵は米軍内部の従いに、メインパラシュートを切り離した。

メインパラシュートは基地内で発見されたが、予備パラシュートから切り離された誘導傘等は、軽いため、風に流されて羽村第三中学校に落下した。落下した誘導傘等は、誘導傘、コード及び予備パラシュートを囲む袋が一体となっているもので、予備パラシュートを開傘した際に絡まるのを防ぐために、安全上の設計で予備パラシュートから切り離されるようになっている。」そして12日には訓練を再開(右写真)しました。



事故起こしたばかりなのに事前通告なく訓練

4月19日に2人、20日も2人(写真)、計4人のパラシュート降下訓練が無届けで行われました。福生市役所の問い合わせに、20日の5時過ぎ、北関東防衛局からパラシュート降下訓練をしたという事後の連絡がありました。聞かなければ報告なし？

第109回横田座り込み行動10年目に！ CV22配備に怒り！ 500人が参加！

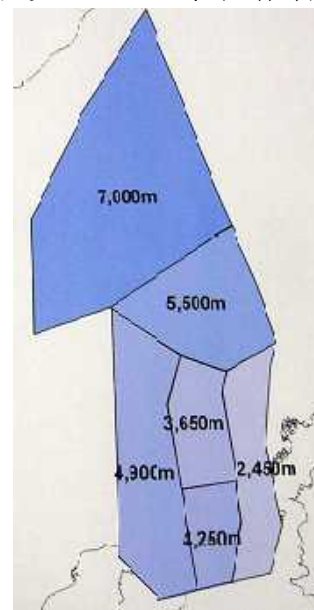
2009年から始められた横田基地の撤去を求める座り込みは、今回第109回で10年目に突入。よくここまでと思いますが、ここからが正念場です。宮本徹衆院議員の連帯と激励の挨拶、記念講演で小柴康男氏が「なぜCV-22の横田配備は許せないのか」と題してお話をしました。



危険なパラシュート訓練止めよ！ 防衛省レクチャーに参加



4月16日、衆議院会館で日本共産党国会議員団東京事務所が、パラシュートが中学校に落下した事故について、防衛省から聞き取りを行うというので、略称「横田撤去の会」も3人が参加しました。7の方が説明にきてくれたのですが、回答がはっきりしないのです。



再び 事前通告なしのパラシュート訓練に抗議



4月23日、事故が起きたばかりなのに19日、20日と通告なしでパラシュート降下訓練が行われたことについて、宮本徹事務所で、防衛省レクが行われました。宿題になっていたことも、まだ確認できない、との回答。

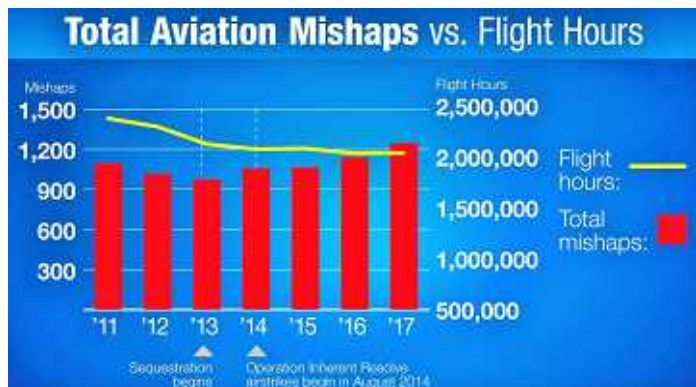
例えば、右図は横田空域ですが、横田基地上空の横田空域の高さは3650m、ところがパラシュート降下訓練で飛行していた高度は3810mです。民間機が飛行する空域に入っています。衝突事故が起きたら大変ですが、見解なしです。他にも、パラシュート訓練していた部隊は？パラシュート降下したのは何人？にも答えず。

投稿 小松スミエさん (3人の子どもさんが、羽村三中の卒業生です。)

10日、PM6時のニュースで、羽村三中校庭にパラシュート落下！「えっ！」「うそ！」耳を疑う。市役所に電話し、すぐ学校へ。起きてほしくないことが現実になってしまった。これからもまた起こるかもしれない。

米軍は翌日、羽村市に謝罪と説明に来たが、それはあくまで米軍側のパフォーマンスにすぎず、12日から訓練を再開した。

住宅密集地の上空で、我が物顔で訓練している米軍に怒り、不安、恐怖がつのる。毎日、安心・安全な、静かな夜を返してほしい。今すぐ、訓練は中止してほしい。



米軍機事故 5年で133人死亡

2013～2017 米会計年度(2012年10月～2017年9月)の5年間で米軍機は、飛行時間は減っているのに事故件数は増えている実態が、米軍事専門誌「ミリタリー・タイムス」が入手した資料で分かりました。(左の表参照) 乗組員が少なくとも累計133人死亡していることが分かりました。

今年に入っても3月中旬以降の3週間で6機が墜落し、乗組員16人が死亡するなど、事故の増加に歯止めがかかっていません。横田基地に配備が強行されようとしている特殊作戦機 CV-22 オスプレイも2017年度は、クラスBの事故が8件、クラスCの事故が17件と激増しています。